

兵庫県
多可町

歴史街道

中区版

高田郷

たかたごう



あまんじゃこの
歴史街道
ぶらつとある記

荒田郷

あらたごう

安田郷

やすだごう

天神郷

てんじんごう

稲荷郷

いなりごう

中区には5つの『郷(ごう)』があり、各郷は区の中で扇の要のように隣接しています。

『郷』は律令制時代の行政最小単位であると言われ、『郷』を行政区分に用いている所は珍しく、『郷』があること自体この地域の特徴と言えます。

古い歴史性を物語る『郷』をめくれば、遙かなる時代へタイムスリップ。

『あまんじゃこ』とは、「播磨国風土記」にでてくる大男。空が今よりも低かった頃、ひとまたぎで3里歩き天にも届く大男は、腰をかがめなければ歩けなかった。明石のある里から北国へ行く途中、多可町のあたりに来たとき急に空が高くなり背伸びをすることができた。喜んだ『あまんじゃこ』は「ここは空が高い、たかじゃ、たかじゃ。」と叫んだ。それが『多可郡』の語源となったといわれている。ほかに塔の石や巨大架け橋、奥中の長石などいろんな伝説がこの多可町に残っている。



多可町・多可町観光交流協会 TEL:0795-32-4779

多可ふれあいボランティアガイド TEL:0795-32-0685

至加西市

至丹波市

丹波市

至西脇市

西脇市

荒田郷

門前の①瑞光寺は、太平記にも登場する赤松則祐が母の菩提を祀るため夢窓国師を招いて建立したとされています。竜宮城のような門を持ち、紅葉の名所としても有名な庭園は、池泉鑑賞式と枯山水様式を駆使して造られています。また、同寺裏山の山頂尾根筋には中世の山城として段ノ城、貝野城の遺構が残っています。瑞光寺の東に位置する安楽田の②荒田神社には、江戸時代から続く荒田神楽（町指定無形文化財）が伝わっています。竹の「ササラ」や木の「バチ」が打つ拍子と笛の音に合わせ、古式ゆかしく舞い踊る獅子の姿は、独特の雰囲気を出しており、現在、荒田神楽保存会が継承しています。

中区最高峰・妙見山の裾野には、7世紀後半のものとされる200基余りの古墳があります。中でも大小16基からなる③東山古墳群には、現存する横穴式石室としては兵庫県下でも最大級のもの（東山1号墳）が含まれます。ここから見える木立の場所には、古墳が造られなくなって寺院へと変わっていった頃に建てられた多哥寺跡が見下ろせます。東側（左の方）へ目をやると古代の郡役所があったとされる思い出遺跡もあります。これら遺跡からの出土品は、④那珂ふれあい館に常設展示されています。

また、同館敷地内には播磨風土記多可郡由来の碑もあります。

高田郷

⑤牧野大池は、エメラルド色の水面にトンガリ山を映し出す美観を呈し、近くの入角鉾山跡には、牧野千軒と呼ばれた鉾山住宅跡や山神社跡なども残っています。この大池に通じる旧道の東側に、日本の伝統工芸『日本刀』を作る⑥真鍋純平（まなべすみひら）鍛刀場があります。（見学は要予約）

牧野大池を南下すると、多くの遊園設備を持つ県立余暇村公園があります。この公園には昔の⑦銅製錬所跡が発掘整備されています。ここから更に南下すると鍛冶屋の⑧金刀比羅神社があります。同神社は、播州三大祭として毎年11月に祭が行われます。この神社の近くには平成2年に廃線となった旧加古川線の終点・鍛冶屋駅舎が残っており、⑨「鍛冶屋駅記念館」として転用され見学が可能です。ここから西にある国道427号線に向かう場所に⑩量興寺があります。量興寺は高寺山を山号とする真言宗の寺院で、山号が示すように古代寺院「多哥寺」の後身です。「多哥寺」は飛鳥時代後半の創建で、多重塔を含む七堂伽藍の壮大な寺院でしたが、現在では塔心礎のみが現存しています。

また、間子の⑪加都良神社には、延喜式内社として荘厳な社殿や天保13年の銘を持つ大祭礼絵額が掲げられています。他に同集落には間子七不思議も伝承されています。

天神郷

徳畑の⑫天神社は、平安時代末期、この辺りの領主であった源頼政が菅原道真を尊崇して、奥中熊野社に詣で、その由縁で中世期、この地に遷座建立されたと考えられる荘厳な神社です。

奥中の⑬観音寺【真言宗】は、行基菩薩の開基とされ、境内には多可町内で一番古いと伝えられる文学碑（灯籠）や日限地蔵（ひぎりじそう）、さらには旧多可郡役所の門柱なども保存されています。ここから東にある国道427号線には⑭「あまんじゃこの長石」があります。現在の役場近くの郡役所跡地には⑮モニュメントが設置され、旧多可郡9ヶ町村名や歴代郡長名が刻まれています。ここから近くにある⑯松内ミネラルコレクションは、約4万2千点の鉱石・宝石・化石を所蔵する県下有数の博物館です。ふるさと工房「夢蔵」は、地域の農産物を利用し伝統的な食文化や旬の味わいを提供してくれます。「夢蔵」の西側には⑰播州歌舞伎のモニュメントがあります。播州歌舞伎は元禄年間に、加西市北条で起こった高室歌舞伎（芝居）の流れをくむ「農村歌舞伎」です。高室の座は昭和12年頃にすべてなくなりましたが、当時に本拠を置く嵐獅山一座がその伝統を今も受け継いでいます。平成16年1月に中央公民館播州歌舞伎クラブが「全国ふるさと歌舞伎フェスティバル」に招かれるなど、若者達がふるさとの誇る伝統芸能の保存に励んでいます。

稲荷郷

糶屋の⑱稲荷神社は、戦前も中区唯一の「県社」として格付けされ、長い歴史と広い境内を有していますが、近年においても昭和61年に、この一帯が「ひょうご風景100選」に選ばれ、豊かな景観を誇っています。

同神社は、姫路城に嫁ぎ姫路藩本多忠刻（ほんただたとき）の妻となった千姫（せんひめ）の懐妊祈願詣により、将軍家や藩主の庇護を受けると共に、安産の神様としても知られるようになりました。さらに「忠臣蔵」で有名な、大石内蔵助と並ぶもう一人の赤穂藩家老・奥野将監（おくのしょうげん）が晩年ここで過ごし、彼の墓が近くにあることでも知られています。

境内の裏手に広がる糶屋ダムと翠明湖、なか・やちよの森公園一帯では桜花の下で翠明湖マラソンが行われ、公園事務所を拠点に、ハイキング、サイクリング、山歩き、自然の中でのものづくりなど何でも楽しめる行楽地となっています。

また、坂本の⑲鳳泉寺（ほうせんじ）のご本尊「木造聖観音立像」は県文化財に指定され、戦国期の山城「森本城」にまつわる伝説と共に、この地域の歴史豊かな環境を物語っています。

安田郷

西安田の⑳円満寺【真言宗】や中安田の㉑法幢寺（ほうどうじ）【臨済宗】など、多可西脇地域の本山的な役割を持っていた寺院が、今も豊かな文化財と共に残っています。円満寺は奈良時代後半の遺物などから古い歴史が実証されており、近世にも姫路藩主の篤い保護を受けていたことが知られています。境内の銀杏の木は乳の垂れるような形から、豊かな母乳を得られるよう祈願するお参りが少なくありません。

また、禅宗の様式を色濃く残す法幢寺にも将軍家の朱印状が伝わっています。

東安田の善光寺のご本尊も、中区で一番古いものと言われていますが、現在は無住寺となったため、この阿弥陀仏は県立歴史博物館（姫路）に保管されています。今は薬師三尊像と、このお堂の前に立つ㉒大イブキが文化財として残っているのみですが、この大木は戦国期の明智光秀伝説にも裏付けられるように、樹齢500年の県指定天然記念物です。

多可町は酒米「山田錦」発祥の里としても知られています。その由来を示しているのがサンクスパーク近くにある㉓「山田勢三郎翁頌徳碑」です。彼は明治の初期に酒造好適米「山田穂」を育て、これが今の「山田錦」のもととなったのです。

また、東安田南端に位置する武嶋山は、摩崖仏で有名で「多可十景」に数えられた名所のひとつです。